

暴力が与える影響

被害者に与える影響

被害者は、身体的にも精神的にも傷つけられます。

被害者は、暴力により骨折や打撲、ケガなどの身体的な影響を受けるだけでなく、PTSD（心的外傷後ストレス障害）に陥る、うつ病になるなど、精神的な影響を受けることもあります。



PTSD（心的外傷後ストレス障害）とは

生死に関わるような災害や脅威が及ぶような出来事（トラウマ）を体験することによって生じる様々なストレス障害のことをいいます。

《主な症状》

- ・意図しないのに外傷的な体験が繰り返し思い出されたり、夢に登場する。
- ・体験を思い出すような状況や場面を、意識的又は無意識的に避け続ける。
- ・あらゆる物音や刺激に過敏になったり、不眠やイライラが続く。

子どもに与える影響

暴力を受けることで、子どもにも様々な心身の症状が現われます。

- 暴力の目撃者となることは、子どもに多大なストレスを与えるため、問題行動、多動などの様々な心身の症状として現われることがあります。
- 暴力を目撃しながら育った子どもは、自分が育った家庭での人間関係のパターンから、感情表現や問題解決の手段として、暴力を用いることを学習することもあります。
- 子どもの目の前で配偶者に暴力を振るうことは、直接子どもに対して向けられた行為でなくても、言葉や態度で心を深く傷つける行為であり、児童虐待にあたります。

加害者の特徴

加害者には、DVが犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であるという意識が低く、一時的に和解してもすぐに同じことを繰り返すという特徴があります。加害者については、一定のタイプはなく、年齢、学歴、職種、年収には関係がないと言われています。中には人当たりが良く、社会的信用もあり、周囲からは「家で暴力を振るっているとは想像できない」と思われている人もいます。